

DI 調査結果（令和4年4月-6月期）

一般社団法人石川県鉄工機電協会

概況総括：『原材料価格の高騰による収益逼迫や部品・材料の供給不足による
生産調整を余儀なくされるなど、先行きは不透明である』

【調査概要】

1. 今期(令和4年4月-6月期)の業況調査DI12項目では、「操業率」など5項目がプラス、「売上高」など7項目がマイナスとなり、全項目が悪化している。
2. 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの9項目では、
 - (1) 景況感を端的に表す「売上高」は、▲0.8(前回 10.4)とマイナスに転じ、部品不足等で生産計画に影響が出ている。また、原料高や需要増等によって高騰が続いている「原材料価格」が▲85.4(前回▲80.8)と更に悪化し、「収益状況」▲22.6(前回▲9.5)に影響が出ている。
 - (2) 現場の繁忙さを表す指標では、「操業率」2.8(前回 11.8)、「受注残」8.7(前回 18.1)、「生産設備」13.3(前回 21.2)と、一服感が見られる。
3. 来期については、「来期受注」11.3(前回 16.5)と引き続きプラスで推移しているが、「来期採算」▲10.5(前回▲6.5)「来期資金繰」▲8.7(前回▲3.5)と悪化しており、部品入手困難による生産調整や原材料価格の高騰による影響が見受けられる。
4. 「企業経営上の悩み」については、項目を追加した平成20年4-6月期以来、初めて「原材料価格」が29.3(前回 25.7)とトップとなった。原油価格や原材料価格の高騰が響いており、来期採算・資金繰りへの不安材料となっている。
5. ロシア・ウクライナ問題等の影響による鋼材・エネルギー関連の高騰で収益状況が逼迫してきている。加えて、部品・材料の供給不足による生産調整を余儀なくされており、先行きは不透明感が強まっている。

